

協議事項 8

英語教育の推進と国際交流について

英語教育の推進と国際交流について、協議事項として以下のとおり提案する。

令和 8 年 6 月 18 日 提出

神戸市教育委員会事務局
事務局長 竹森 永敏

英語教育の推進と国際交流について

1. 本市の英語教育

英語教育については、文部科学省が「第4期教育振興基本計画」に数値目標（CEFR A1レベル相当（※）以上の生徒の割合を60%以上とする）を定め、毎年度「英語教育改善プラン」の策定を求めている。まもなく、令和7年度の各自治体の達成状況が公表される。（※CEFRは外国語の習得レベルの世界基準で、A1は英検でいえば3級程度）

神戸市では、令和5年9月に策定した「英語教育の推進に関する取組方針」に基づき、国際的な活躍の基盤となる英語力の育成を目指し、「実践的なコミュニケーション能力の育成」と「異文化理解の深化」を重点項目として、英語教育の取組を進めている。令和6年度以降は、本方針をもとに英語教育の向上に取り組んでいる。

2. 英語教育の現状

（1）小学校

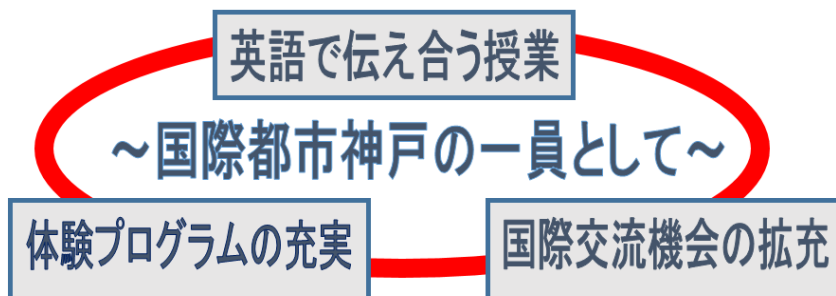
- ・昨年度行った児童へのアンケートでは、「ALTや外国の人と英語で話したい」や「外国や外国の文化に興味がある」と答えた児童の割合に増加傾向がみられる。
- ・ALTと教員の協同授業・体験プログラムの改善や、英語・異文化に触れる場（ワールドスペース）の設置が、児童の外国への関心の向上につながったと考えられる。
- ・一方、「授業の内容がよくわかる」「知っている英語やジェスチャーで伝えることができる」と答えた割合は相対的に低く、英語で伝え合う楽しさを実感できる授業への改善状況には、学校間に差があると考えられる。

（2）中学校

- ・CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数の割合が増加した（R6年度56.6% R7年度57.5%）。
- ・発信技能を強化する授業を推進しており、共通理解や授業改善が進んでいるが、その進捗は学校によって差があると考えられる。

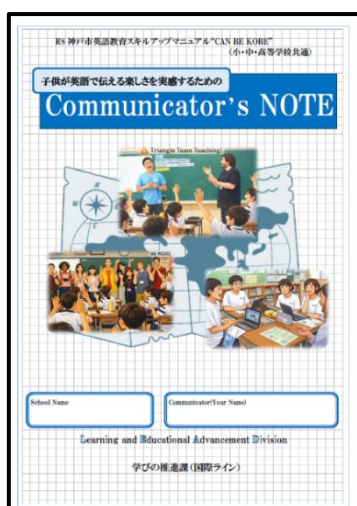
3. 今年度の取組み

英語で伝え合う楽しさを実感できる単元デザインを軸とした授業づくりと、体験プログラム及び国際交流の充実を通して、国際的な活躍の基盤となる英語力の育成を目指す。



(1) 授業改善

- ・令和6・7年度実施した4技能型試験（GTEC）の結果をふまえ、「英語授業スキルアップマニュアル」を作成し、全中学校に配布した。今年度は、小学校、高等学校についても同じデザインで作成し、「小中高接続」を意識した授業ができるようにしている。
- ・このスキルアップマニュアルを活用し、児童生徒が安心感のある教室で英語を伝えることに自信を持つ経験ができる授業を目指して、英語を担当する全ての教員に対し、発話中心の授業作りについてのオンライン研修を行っている。研修は全6回×5学年(小学校5年から中学校3年まで)を分けて実施しており、6月1日に全ての学年の第1回目が終了し、のべ276名が参加した。
- ・ALTとの協同授業の中で、発表活動等の学習成果を発信する機会を充実し、自分の考えや気持ちを適切に表現できる英語力を育成していく。



(2) 体験プログラム

- ・体験プログラムは、授業と関連付けた内容で、学んだことを実践できる機会として位置づけている。
- ・約10名の ALT をチームで学校（小・中・高）に派遣する体験プログラム、夏休みに中学生が ALT と対話・交流する「アルトーク」や ALT が企画運営する英語プログラムを体験する「サマースクール」を引き続き実施する。
- ・中学生がチームを組んでプレゼンテーションを行う「神戸イングリッシュ・フェスティバル」について、積極的な参加を促していく。



アルトーク



サマースクール

(3) 国際交流

① 対面交流

- ・令和7年度から、コロナ禍で中止していた対面交流であるブリスベン市（オーストラリア）との中学生相互派遣交流、フィラデルフィア市（アメリカ）との高校生派遣交流を再開した。令和8年度は、ブリスベン市と星陵台中学校が、フィラデルフィア市と葺合高等学校が交流する。



② オンライン交流

- ・英語を学ぶ海外の同世代の生徒とのオンライン交流も実践的なコミュニケーションの機会として重要であり、台湾やオーストラリア等の学校とオンライン交流に取り組んでおり、令和7年度は小中あわせて23校が実施した。今年度は50校以上で実施ができるよう取り組んでいる。
- ・具体的には、経験の浅い教員も無理なく取り組めるよう、4月に配布した「英語授業スキルアップマニュアル」に実践例を掲載している。
- ・また、オンライン交流の経験のある教育委員会事務局の職員が、相手校とのマッチングや交流内容の検討といったソフト面から、オンライン機器の接続等のハード面までのサポートを積極的に行い、どの学校も交流の機会が持てる仕組みを構築する。



③ ワールドスペース

- ・昨年度、学校内の空きスペースを活用し、英語ルームや英語コーナー（ワールドスペース）を設置し、登下校時や休み時間など、授業以外でもALTと日常的に対話・交流できる環境を整えた。今年度はこれらを活用し、英語や異文化に触れる機会を充実させていく。



④KOBE インターナショナルフェスタ

- ・令和8年2月に、公益財団法人神戸国際コミュニティセンター（KICC）及び神戸市教育委員会の共催で、ハーバーランドスペースシアターにおいて「KOBE インターナショナルフェスタ」を開催した。出身国の文化を紹介するブースを出展する等で全ALTが参画し、ゲームやクイズを通して1,600名を超える神戸市の児童生徒や市民が「英語で伝える・学ぶ楽しさ」を体験した。今年度も開催予定。



(4) その他

- ・市企画調整局が、夏休みに高校生が「2035年の神戸」をテーマに英語でディスカッションするイベントとして、「KOBE Youth Summit: Toward 2035」を開催する。自分の思いやアイデアを英語で発信し、他の学校に通う高校生との交流を楽しみながら、新たな視点に触れる機会にもなることから、市立高校の生徒に参加を呼びかけていく。

4. 意欲や技能に関する調査について

① 英語に関する意識調査（意欲面）

質問例

外国語活動（英語）の勉強が好きだ。
外国語活動（英語）の授業がよく分かる
ALTや外国の人と英語で話したいと思う。
ALTや外国の人と話すときは、自分の知っている英語やジェスチャーで伝えることができる。

② 小学校：神戸市学力・学習状況調査（技能面）

中1・9月に実施したことから、小学校5、6年生と中1の1学期に学習した内容から出題しています。

【8】
大問8は、資料を見て、問いに答える問題です。問題は（1）と（2）の2問あります。
ゆい（Yui）は、英語の授業で自分の町のみりよくを伝えるためのポスターを作っています。

（1）ゆいのポスターにふさわしい絵を1つ選んで、ポスターの空所に入れなさい。

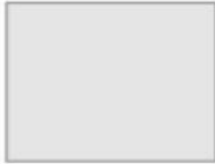
<解答らん>





Welcome to our town.

We have nice mountains. _____

You can enjoy camping. _____

You can see many stars. _____





③ 中学校：全国学力・学習状況調査（技能面）

「話すこと」調査においては、即時のやり取りにおける応答から、自分の思いや考えを理由とともに述べる力を求められます。

<問題文>
あなたは、留学生のミン(Ming)と仲良くなるために、一緒にしたいことをクラスの友達と発表し合っています。次はあなたが発表する番です。「ミンと一緒にしたいことを1つ取り上げ」、「なぜそれしたいのか」を、英語で話しましょう。動画内の【例】を参考にしてもかまいません。【考える時間1分 解答時間30秒】



← 再生ボタンを押してください

解答を始めてください。

What do you want to do with Ming?

【例】

